

ここで
仕事をつくる。
未来をつくる。

福島発 障がい者協働プロジェクト



ここで仕事をつくる、未来をつくる。

福島発 障がい者協働プロジェクト

東日本大震災から 生まれたもの

2011年3月の東日本大震災、福島第一原子力発電所事故により、12万人もの福島県民が故郷を離れました。新しい土地でも希望を持ち、毎日进行いきと暮らしたいと願ったとき、多くの人が「仲間と役割」が大切であることに気がつきました。それは障がいを持つ人たちも同じです。「仲間と共に働きたい」という強い思いは13の福祉事業所の連携となり、そこからさまざまな立場の企業、NGO/NPO、個人が力を合わせ、大きなネットワークへと広がりました。震災・原発事故はとても悲しい出来事でした。けれども、ここから生まれた新しいネットワークによる可能性は福島の復興に留まらず、これからの社会の先駆けとなっていくと私たちは信じています。



協働プロジェクトの誕生

福島の13の障がい者福祉事業所

3つの想い・願い

1. より多くの障がい者が関わりを持つことができる、それぞれの障がいに適した仕事、少人数・短時間でも携われる仕事がほしい
2. 質が高く、売れる商品をつくり、障がい者の工賃向上を目指したい
3. 移転先でも継続できる仕事をつくりたい

企業

道具・技術・販売支援、
機材提供

NGO/NPO

組織づくり・
ネットワークづくり

地域住民

ボランティア

協働事業所紹介

離れた場所でも力を合わせて
この状況を乗り越えるために

双葉郡の6つの福祉事業所、「避難の続く双葉郡の福祉事業所を応援したい」という避難先の5つの福祉事業所、そして震災後に立ち上がった2つの福祉事業所。これら、計13の福祉事業所が協働のネットワークを組みました。

※矢印は東日本大震災以前の所在地と、2017年6月現在の移転先を示すものです

双葉郡
[双葉町、浪江町、葛尾村]
[川内村、大熊町]
→郡山市 ※利用者の避難先

しんせい

郡山市
ワークコスモス

郡山市
CAFE Sweet hot

郡山市
共同作業所にんじん舎

郡山市
ほっこり cafe まあぶる

福島市
双葉町→福島市
あおば

浪江町→二本松市
アクセスホームさくら

浪江町→二本松市
コーヒータイム

大熊町→田村市
おおくま共生園

田村市
多機能型事業所田村

川内村
NPO法人かがやき どりょう

富岡町→広野町
ワークセンターさくら

楡葉町→いわき市
ふたばの里

発災から1年が過ぎた頃から、福島の障がい者を応援する目的で、企業などからさまざまな大量注文を受けることができました。しかし小さな福祉事業所では製造数や納期に限界があるため、仕事がない状況にも関わらず、注文を断らざるを得ないことも。「いくつかの福祉事業所で仕事を分け合うことができれば、大量の注文を受けることが可能になるかもしれない……」。そんな思いから、13の福祉事業所が参加する協働の仕事が生まれました。



1. 立ち上げ支援

- ・研修会や製菓指導：日清製粉グループが支援。
- ・必要な道具を揃える：特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR Japan)、日清製粉グループが支援。



2. 協働のしくみ

製菓、箱折り、販売など福島県内の12の福祉事業所がひとつの商品に関わる仕事を分担。さまざまな立場のステークホルダーが知恵を出し合い、協働の仕事を整えました。



3. 販売開始!

多くの方にこの事業を知っていただきたいとの思いから、復興支援企業内マルシェを通じ、武田薬品労働組合が購入によって応援。またインターネット販売が軌道に乗るよう、Yahoo! JAPAN に応援いただきました。

魔法のおかし ぼるぼろん



口の中で溶ける前に「ぼるぼろん」と3回唱えれば願いが叶うと言われている、スペイン・アンダルシア地方発祥の祝い菓子。シナモンの風味と柔らかな食感が魅力です。10月～4月までの冬季限定販売。



ご自宅用に8個入り小箱もございます

縁起菓子 ふくふく

縁起のよいお菓子4種を詰め合わせました。しあわせ(4・合わせ)いっぱい、夢いっぱいのお味をご賞味ください。



お目出鯛のカレークッキー / 大吉だるまのチョコクッキー / 種まきうさぎのアーモンドクッキー / 馬九行久のキャラメルタルト



ご購入は

しんせい ヤフー

検索

2015年当時、手芸を中心とした授産品をつくる福祉事業所が集まり「ミシンの学校プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトでは、技術力の向上以外にも、避難生活での共通の悩みや不安を一緒に乗り越えていくことを大切にしています。そのために共同作業日を設け、福祉事業所の利用者や職員が集まって仕事や昼食を共にし、交流を深めるなどの工夫も行っています。



1. 立ち上げ支援

- ・ミシンの寄贈と講習会：
ブラザー工業株式会社が支援。
- ・必要な道具を揃える：
特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR Japan)、
ブラザー工業株式会社が支援。



2. 協働のしくみ

ひとつのデニムカバンをつくるため、裁断、ロックミシン作業、生地クリーニングと色止め、アイロンがけ、縫製、シルクスクリーンプリントなど7つの福祉事業所が仕事を分担しています。



3. しごとづくり

株式会社マルニジャパンや自家焙煎珈琲屋パッサがオリジナルトートバックを定期的に注文。商品を通して、福島復興や障がい者の仕事を自分たちの持つ市場に伝えようと試みています。

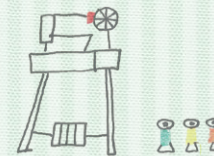
デニムカバン

震災・原発事故以降、たくさんの支援品の申し出がありました。使われないまま倉庫に眠っている生地や紙、ボタン、毛糸などをご支援いただき、これらの材料を用いて商品づくりを行っています。



ティッシュケース

ミシンの学校で学んだ技術を生かし、デニムカバンを作った際に残ったハグレに刺繍を施し、ティッシュケースに仕上げました。利用者が描くのびやかで楽しいデザインを商品化しています。



ご購入は

しんせい ヤフー

検索

新しく生まれる福島のために

私たち、障がい者協働プロジェクトは福島の復興を志し、震災後に立ち上がりました。震災から6年が経つ中、避難中の障がい者が働く場をつくり、社会参加を通して、さまざまな立場の企業、NGO / NPO、個人とネットワークをつなぎ、力を合わせて課題の解決に取り組んできました。これからも私たちは日々の暮らしの中で、次の目標に向かい、真摯に取り組んでいきたいと思えます。

障がい者協働プロジェクトが取り組む目標

若者や障がい者を含むすべての人たちが働きたいのある人間らしい仕事につくことができる福島を目指します。

多様な背景や個性を持った人たちの違いを認め合い、対等に社会に参加する福島を目指します。

商品の価格や品質だけでなく、誰がどのように作ったのかを大切に、持続可能な仕組みをつくります。

さまざまな立場の企業、NGO/NPO、地域住民と力を合わせて課題解決にのぞみます。

知っていますか、SDGs。

福島の問題は地球的規模の課題と深くつながっています。



SDGs とは

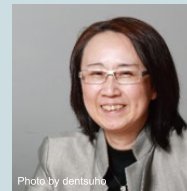
持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) の略。2015年、ニューヨークの国連本部にて開かれた「国連持続可能な開発サミット」で成果文書として採択されたアジェンダにて掲げられた目標。

→国際連合広報センター「2030 アジェンダ」

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

福島のこれからは、世界のこれから。

—協働プロジェクト応援者のみなさんからの声—



長澤 恵美子さん

1%クラブ
コーディネーター

東日本大震災という辛い経験から、いかにプラスのレガシーを遺すかが、日本に、そして私たちに問われています。プラスのレガシーの1つが、課題に関心を持つ個人や組織が寄ってたかって協働して解決しようとするマルチステークホルダー・アプローチだと、私は信じています。しんせいは当事者、現場の課題の発信力、協力を受け入れる受援力、協働する場の創造力により、課題を解決しようとしています。何より、関わる人や組織が夢とワクワクを共有できる場を生み出せることが、しんせいの強みです。これからも、Leave no one behind の精神を大切にしながら、挑戦を続けることを期待しています。



黒田 かをりさん

一般財団法人
CSO ネットワーク
事務局長・理事

東日本大震災の後、特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR Japan) をはじめとする複数の NPO・NGO は、協働プロジェクトの立ち上げや事業実施などへの協力とともに、刻々と変化する福島で毎日を生きる人々に寄り添ってきました。そして、福島の今を国内外に伝え、企業を巻き込みながら共感の輪を広げるお手伝いもしてきました。同時に、しんせいははじめとする13事業所の職員や利用者のみなさまとの交流を深め、多くの勇気と力と友情をいただけてきました。福島の未来は日本の未来であり、福島への関わりは日本の未来への架け橋だと信じています。



田口 護さん
田口 文子さん

自家焙煎珈琲屋
バッハ
店主

バッハは開業以来49年、正しいよいコーヒーをていねいに手作りしてお客様に提供しています。毎日何杯でも美味しく飲めるコーヒーを作り、お客様のコーヒーの楽しみを深め高めるのが私たちの仕事です。蝶の羽ばたきが地球の反対側の気象に影響する例えもあるように、私たちは自ら過小評価せず、小さな羽ばたきを続けてきました。それが今では、生産国の農園主を招いた試飲会になったりしています。しんせい製のトートバッグも同じです。通いのエコバッグとしてコーヒー豆を持ち帰るお客様が増えています。しんせいの小さな羽ばたきが少しずつお客様を変えています。しんせいに感謝。

障がい者協働プロジェクトの概略

2011年3月

JDF被災地障がい者支援センターふくしま 活動開始

2011年10月

JDF被災地障がい者支援センターふくしま 交流サロンしんせい 開所

2012年1月

福島県障がい者自立支援拠点整備業務 交流サロンしんせい内にてスタート

2013年10月

特定非営利活動法人しんせい 設立

障がい者協働プロジェクト第一弾 製菓(魔法のおかしぼるぼろん)スタート

2015年4月

障がい者協働プロジェクト第二弾 ミシンの学校スタート

2016年3月

福島県障がい者自立支援拠点整備業務 終了

JDF被災地障がい者支援センターふくしま 活動終了

2016年4月

就労継続支援B型事業所しんせい 開所

障がい者協働プロジェクトの事務局を引き続き担当

特定非営利活動法人しんせい

しんせいは東日本大震災・原発事故の影響を受ける福島を新生し、明るく平和な社会を創造する活動を行っています。



ここで仕事をつくる、未来をつくる。 福島発 障がい者協働プロジェクト
2017年7月発行

デザイン：前川 亜希子

写真：鈴木 綾、株式会社ランドマーク

素材製作：遠藤 伸也、三輪 千尋、宗像 優志

編集：高橋 創一

発行：特定非営利活動法人しんせい

〒963-8022 福島県郡山市西の内1丁目25-2

TEL/FAX 024-983-8138 MAIL salon.shinsei@sky.plala.or.jp

WEB <http://fkp13.jp/project> <http://shinsei28.org>

制作協力：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

寄付： 「5」のつく日。JCBで復興支援

しんせいWEBSHOP

いつでも、どこからでも。
福島へ注文、福島から直送。

魔法のおかしぼるぼろん



綿起菓子ふくふく



デニムカバン



ドイツシュケース



インターネットで、福島発・障がい者協働プロジェクトの商品をお買い物。

しんせい ヤフー

検索

<http://store.shopping.yahoo.co.jp/nposinsei/>

協力

